３．その他の取組

（１）リーダーとしての技能・態度の育成について

・京都大学見学会の実施

〈目的〉

大学の講義体験や、将来リーダーとして活躍する海外からの留学生や大学生との交流等を通して、世界に羽ばたく人材の育成を図る。

〈実施概要〉

令和元年８月６日(火)

【参加者】 畝傍高校生　５３名　　引率教員　７名

【実施内容】農学部での模擬講義、海外留学生との昼食会・交流会、農学部研究室・施設見学、人間健康科学科での体験授業、本校出身の大学生との懇談等

〈実施報告〉

最初に農学部の近藤直教授、小杉緑子教授の２名による模擬講義（京都大学紹介や大学のグローバル化、世界の食糧問題と農業の課題、テクノロジー等について）を体験後、７グループに分かれて、１２人の留学生との昼食会(農学部の学食を利用。１、２名の留学生を含むグループ別で)と交流会を実施した。交流会では英語をツールとして本校生徒から奈良県や本校の紹介を行い、留学生とのコミュニケーションを図った。６・７月に交流会を行うための事前学習会や準備を何回か重ねた結果、パワーポイントを利用しての発表など、昨年度よりもさらに奈良県や本校のことを留学生に分かりやすく伝えながら、活発な交流会を行うことができた。

その後、３つのグループに分かれて以下の内容を実施した。

第１グループ　　農学部研究室の見学

第２グループ　　本校出身の京都大学生との懇談

第３のグループ　　医学部人間健康科学科での体験授業

○　生徒の感想

【大学の講義体験について】

・専門的な内容であったが、環境について興味が持てた。

・世界の食糧事情についての講義を受け、将来への危機感を感じた。

・講義を受けて、家庭で出る「もったいない」をできるだけ減らせるように工夫したいと思った。

・普段の授業では受けられない内容の講義を受け、貴重で新鮮な体験ができて良かった。

・農学部では農業に関することだけでなく、生命や環境なども深く関わり合っていることを知ることができた。

・大学の講義では、英語が普通に出てくることに驚いた。

【留学生との交流について】

・相手にもっと上手く伝えられるように英語をさらに勉強すべきだと思った。

・日本文化のことを相手に説明するためにはさらに日本文化を深く知っておくべきだと感じた。

・英語で話さなければならないという状況はとても貴重だと感じた。

・留学生の方がとても丁寧に、親しみやすく話してくださったので、緊張せずに会話をすることができた。

・英語で会話を続けることはとても難しかったが、自分たちの話を興味深く聞いてもらえて準備をした甲斐があった。

・留学生の方の英語が早くて聞き取りにくかったが、分かるまで話してくれて良かった。また、聞き取れたときは嬉しかった。

・初めは慣れなかったが、次第に英語でコミュニケーションがとれるようになり、留学生の方との

交流を楽しむことができた。

【農学部研究室見学について】

・初めて見るような機械を使った実験を見ることができて、興味深かった。本格的な機械が設置されていて、より良い研究ができると思った。

・このような研究をしてくれる人がいるので、私たちの暮らしが豊かになっているのだと思った。

・農学部では「生物」だけではなく、「化学」「物理」「数学」「英語」も必要であると感じた。

【人間健康科学科での体験授業について】

・体験型の授業で楽しく学ぶことができた。

・作業療法士という職業を知り、障害が発生した場合にすごく重要な職業だということがよく分かった。

・高齢者の感覚を体験することができ、貴重な体験をすることができた。

・作業療法と理学療法の違いがよく理解できた。

〈成果〉

・模擬講義体験および研究室見学は、高校の学習とは異なる学びの在り方を感じさせるとともに、第一線の研究現場の生の体験により、将来の夢やあこがれへの確立につながった。

・基礎学力を身に付けるため、高校での学習は教科別であることが多いが、大学での講義や研究室の見学を通して、いろいろな教科が横断的に関わっていることに気付かせることができた。

・海外からの留学生との交流は、世界共通語としての英語の重要性を感じさせるとともに、英語を母国語としない留学生との交流を通し、目指すべき将来の自分たちの海外での姿を考えさせるきっかけにできた。またアジア圏をはじめとする様々な地域からの留学生との交流により、それぞれの地域との文化の違いを感じさせるとともに、自国の文化をさらに深く理解しなければならないことを実体験として感じさせることができた。